

第11回 東京低地河川活用推進協議会 議事要旨

日時：平成26年10月21日（火）10:00～11:30

場所：森下文化センター 2階 多目的ホール

(1) 第10回協議会における議事要旨の確認

■「第10回協議会 議事要旨」の内容について

○内容について事前確認により了承

(2) 船着場利用ルール社会実験中間報告について

■「船着場利用ルール社会実験中間報告」について説明

○社会実験中間報告について以下の意見が出された

- ・町中にある案内板（地図）の中に、船着場の位置も載せてもらうことが重要である。難しい話ではないので、ぜひ自治体のみなさんにご協力いただきたい。
- ・また、事業者の方々が船着場に関して、特に安全管理についてどのような注文があるのか、事業者の意見を聞いて、安全管理についてのとりまとめをしてもらいたい。
- ・内部河川では手漕ぎボートが多いが、荒川や隅田川は波が高く流れが速いため活動していないのが現状である。動力船の波が手漕ぎボートにとって危険なので、すれ違い時の減速などマナーを守ってもらうと活動の場を広げることができる。
- ・川と船が軸になって、地域を巻き込んだ観光ができるのではないかと思った。
- ・葛飾区の管理している堀切RS周辺では、社会実験期間中のイベント、通年の観光スポットがないという状況である。近年、防災訓練は行われていないので、防災部署と協力するなどして、防災船着場の活用を検討していきたい。
- ・アンケートの意見を読んで、大型バスが駐車できる駐車場を整備して、発災時に使えるようにする必要があると感じた。また、雨除けや日除け対策は必要と改めて感じた。
- ・今年度は亀戸中央公園の利用がないのは、駅から遠いからか、バスが止まれるようなスペースがないことが理由なのか、最終的に整理してもらいたい。トイレや日除け、スロープなどのユニバーサルデザイン対応についても今後は重要になってくると思っている。
- ・船が新たな賑わいにつながるという話は、東京都としても重要と考えており、今年度から水辺を資源として活用した地域の観光振興の取組みを、地元の自治体と連携しながら支援している。
- ・安全対策が重要であり、例えば落ちた時につかまれる浮き輪の設置が必要である。
- ・協議会の目的は防災なので、観光の議論も防災を念頭においた議論が必要である。その前提が崩れてしまうと、意見の出しっぱなしとなり、何も残らなくなってしまう。今年度は、社会実験の結果から、今後やるべきことをしっかりまとめてもらいたい。
- ・モニタークルーズのアンケート結果が非常に興味深かった。「説明がないと退屈してしまう」などの意見があるように、説明などが必要と思う。歴史的な背景など知識があると、景色が違って見える。
- ・以前、東京都の舟運促進事業で船に乗ったが、江東区の担当者の話しが上手で楽しかった。意味を解説してもらうと同じ風景でもすごく新鮮に感じる。荒川でも、新しいタイプの舟運の楽しみ方や観光の在り方を研究する必要がある。
- ・墨田区で実施した舟運事業の経験でも、ガイドの話術、天候が集客に影響する要素になっている。航行する周辺景色の整備も重要である。
- ・ガイドがないと、どんなに周りの景色が良くても、まったく印象がちがう。柳川や松江の舟運では先頭さんが話をしてくれるが、近江八幡では何も話がない。東京の水辺を開発する上ではガイドが必要である。

- ・ボート部では和船の乗船体験を行っているが、体験することで手漕ぎの面白さを知ることができる。体験というのも観光の1つの魅力になるのではないかと思う。

(3) その他（紹介事項）について

■「扇橋閘門と荒川ロックゲートの通航時間帯の拡大」について説明

■「荒川の通船数について」について説明

○「扇橋閘門と荒川ロックゲートの通航時間帯の拡大」と「荒川の通船数について」の説明から、以下の意見が出された

- ・通航時間の時間延長だけではなく、内部河川に残ってしまった船への対応（係留場所の提供など）も必要である。
- ・ロックゲートや閘門は通過時間がかかるため、舟運の回遊性を阻害し、観光のネックになっているのではないかと。スカイツリーの下は、インクライン等の方法も考えられる。以前協議会で提案した事項であり、忘れずにつなげていって欲しい。
- ・せっかく閘門の通航時間を延ばしたのに、昨年度に比べて通船数が減少したのが心配である。スカイツリー等の拠点の賑わいを、エコミュージアム等で地域に広げる工夫が必要である。
- ・自己責任を基本とした利用ルールで船着場を一般開放するのが本協議会の目的であり、現在利用ルールの進捗はどこまできているのか、来年も社会実験をやるのか、それとも荒川本川は自己責任で船着場を開放するのか、その時はどのような仕組み・計画で実施するのか確認したい。
- ・まだ半年あるので、今年度登録している事業者にはヒアリングを行い、実現に向けて前向きに検討してもらいたい。
- ・実験参加の事業者だけでなく、自治体にもヒアリングしてもらいたい。自己責任による開放は、行政としてはじめてのことなので、実現には時間がかかる。これまでのプロセスを踏まえて、自己責任での開放に向けての判断をしてもらいたい。

■「船着場利用について」説明

○国から、荒川ロックゲートの工事、川口でのイベント実施について報告された。

今後の予定

- ・次回の協議会は2月頃に開催を予定。

以上